

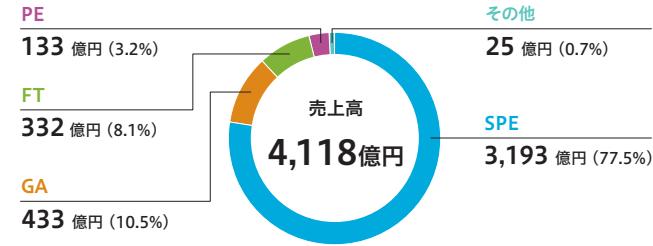
SCREEN

SCREEN NOW vol.112

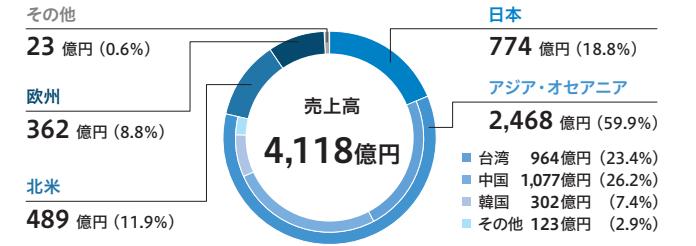
株主通信 2022年3月期

3つのコア技術を展開し 新しいソリューションを創造

セグメント別売上高 (2022年3月期)



地域別売上高 (2022年3月期)



FT ディスプレー製造装置 および成膜装置事業

コーターデベロッパー「SKシリーズ」
レジスト(感光液)をガラス基板上に
均一に塗布し、現像する装置



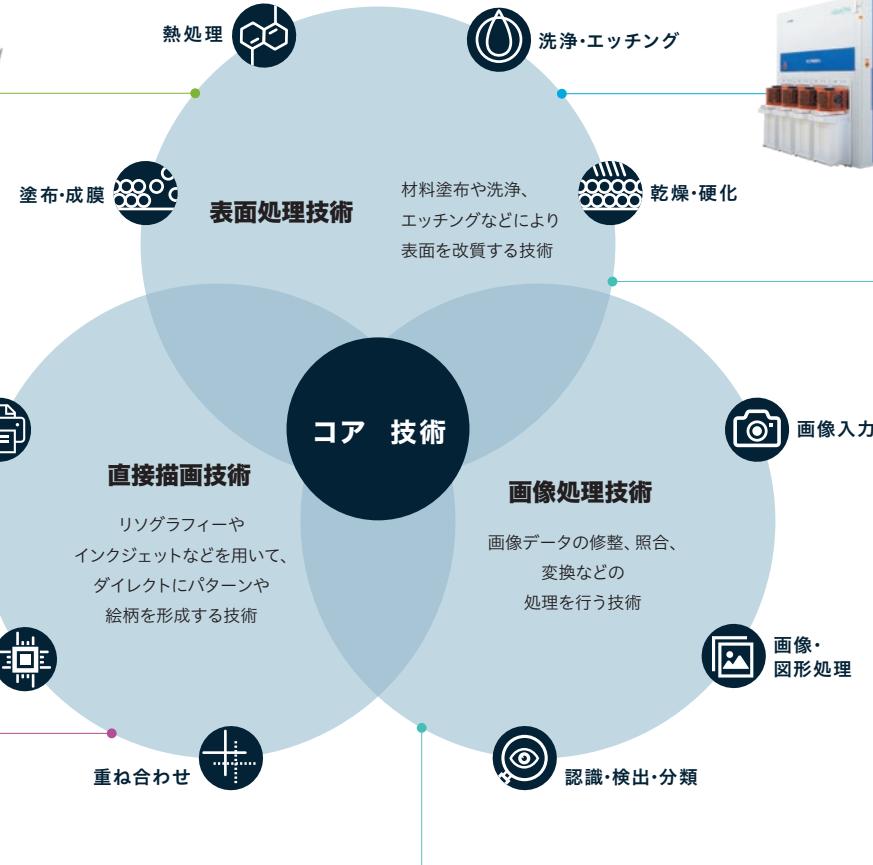
ロール式高速インクジェット印刷機
「Truepress Jet520HD シリーズ」
情報・商業印刷向け
高速インクジェット印刷機

GA グラフィックアーツ 機器事業



PE プリント基板 関連機器事業

直接描画装置「Ledia シリーズ」
CAD データを使用して
フォトリソストに直接描画する装置



SPE 半導体製造 装置事業

枚葉式洗浄装置「SU-3200/SU-3300」
独自の洗浄処理技術により、
半導体デバイスの
微細化・多様化に伴う課題をクリアし、
さらに高い生産性と安定稼働を実現する
半導体ウエハーの枚葉式洗浄装置



新規事業 エネルギー分野

ロールtoロール塗工乾燥装置「RTシリーズ」



車載用リチウムイオン電池(LiB)
などの高性能電池の量産に適した、
高速で高精度な
二次電池用電極塗工乾燥装置

新規事業 ライフサイエンス分野

画像処理技術を応用した高速細胞スキャナー、
直接描画装置や画像処理技術を用いたインクジェット式
錠剤印刷機などを開発



細胞形態解析
イメージングシステム
「Cell3iMager
duos2」



インクジェット式
錠剤印刷機
「OMNITO」



豊かで持続可能な 社会の実現に向け、 ワンランク上の企業体へ

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の蔓延、ロシアのウクライナ侵攻により世界経済の行方は不透明な状況にあります。他方、デジタルトランスフォーメーション(DX)やグリーントランスフォーメーション(GX)が意識され、データセンターや、自動車など幅広い分野で半導体を中心とするエレクトロニクス機器の需要は旺盛であり、当社を取り巻く事業環境は引き続き堅調に推移するものと見ています。

この3月には株式会社日本格付研究所より長期発行体格付を「A- (見通しポジティブ)」に格上げいただき、4月には東京証券取引所の「プライム市場」銘柄として新たなスタートを切ったところです。

当社はこれからも創業の精神「思考展開」を礎に、技術革新に挑み、誰もが幸せを実感できる、豊かで持続可能な社会の実現に貢献すべく、ワンランク上の企業体を目指してまいります。

株主の皆さまにおかれましては、今後とも変わらぬご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

代表取締役 取締役社長
最高経営責任者(CEO)

廣江 敏朗

Q1 2022年3月期を どのように総括される?

半導体をはじめとする部材不足や物流コストアップが懸念されるなか、サプライチェーンマネジメントに注力しました。その結果、売上高、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益、いずれも過去最高を更新しました。

特に、中期経営計画(以下、中計)の経済的価値向上においてはROIC経営を軸に、各種改革に着手し、確実に成果を出すことができました。また社会的価値向上においても大きく前進することができた1年でした。

Q2 中期経営計画の3期目となる 2023年3月期の見通しは?

2023年3月期は、主力のSPEでは顧客の力強い投資により好調な受注が継続すると見込んでおり、売上高、営業利益ともに過去最高を更新する予想です。また、グラフィックアーツ機器事業(GA)、プリント基板関連機器事業(PE)の受注も堅調に推移しており、全社として、売上高、営業利益ともに過去最高を更新予定です。

これによって、中計の経済的価値の目標を1年前倒しで達成する見通しです。収益性に加えて財務体質の改善も進んでいます。創出したキャッシュは、2023年1月稼働予定の彦根の新工場S3-4の増設や、新プロジェクトの創出など

の成長投資に積極的に振り向け、さらなる企業価値向上に努めます。設備投資額、研究開発費、減価償却費はいずれも過去最大になる見込みです。

2023年3月期の連結業績予想(単位:億円)

売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 当期純利益
4,600	745	730	500

Q3 配当方針は?

中計の「連結総還元性向30%以上」の方針に沿って、ご支援くださっている株主の皆さまへの還元を目指しています。

2022年3月期の親会社株主に帰属する当期純利益の増加を踏まえ、期末配当は過去最高の293円としました。また、好調な業績見通しを踏まえ、2023年3月期にはさらなる増配を予想しています。

配当金実績および配当予想(単位:円)

	2022年3月期	2023年3月期 (予想)
1株当たりの 年間配当金	293.00	322.00

詳細につきましては、下記ウェブサイト「株主・投資家情報」で説明しています。
<https://www.screen.co.jp/ir/dividend>

※詳細情報は、中期経営計画についてはP5-6、新工場S3-4についてはP7をご参照ください。

中期経営計画“Value Up 2023” 1年前倒しで目標達成を見込む

2020年7月に策定した中期経営計画“Value Up 2023”。

2年目となる2022年3月期はROIC経営の浸透により収益性と効率性を追求し、
経済的価値の目標として掲げた「売上高」「ROE」「営業キャッシュ・フロー」「株主還元」について
目標値を達成することができました。

「営業利益率」についても、1年前倒しでの目標達成を見込んでいます。

主な取り組み

HD ホールディングス(新規事業含む)

- ROIC経営の浸透により、収益性と効率性を追求
- ゲンバKPIの導入により社内の意識も変化

SPE 半導体製造装置事業

- 微細化や最先端技術向けの開発により洗浄装置の競争力強化
→ 営業利益率20%以上へ
→ 不採算領域の構造改革、生産効率改善を継続
(2023年1月に稼働する新工場S³-4が貢献)

GA グラフィックアーツ機器事業

- POD戦略を強化し、リカーリングビジネスを安定化

FT ディスプレー製造装置および成膜装置事業

- 既存ディスプレイ事業では収益改善
- エネルギー事業の成長投資を実施

PE プリント基板関連機器事業

- 新製品開発に注力、
前期投入した新機種でシェアアップを図る

Value Up 2023

1. イノベーションの創出と持続的成長 サイクルによる企業価値向上

- 戦略的な開発投資を軸に、オープンイノベーション推進やM&Aの活用により、事業ポートフォリオを強化
- 新規事業の創出へチャレンジ継続(エネルギー、ライフサイエンス、検査・計測、AI)

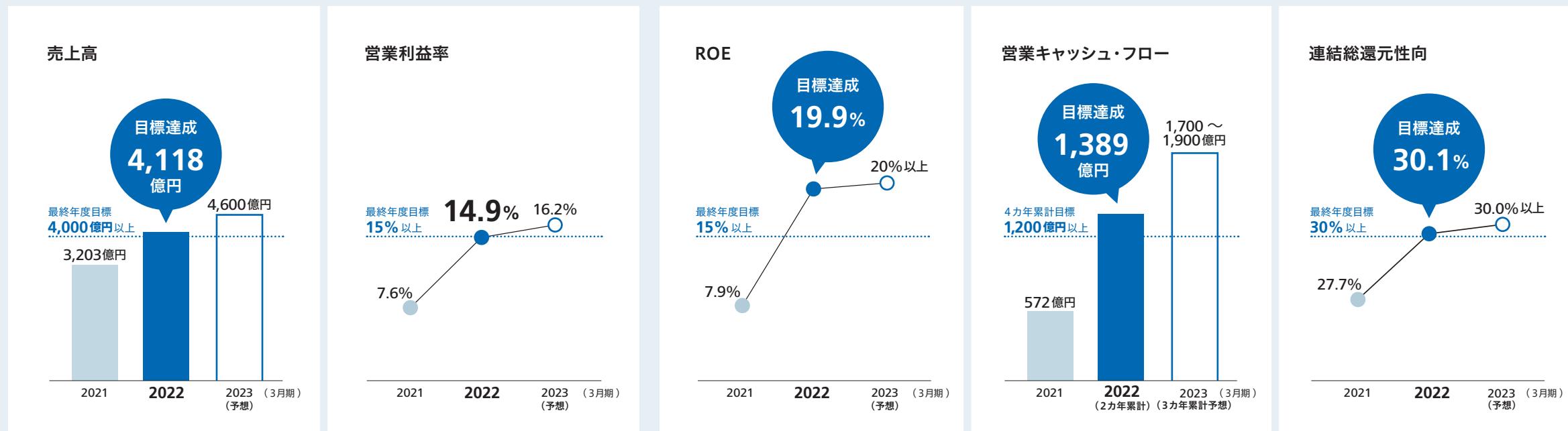
2. 収益性と効率性を追求し、 利益に見合うキャッシュを創出

- ROIC指標導入を通して、各事業における資本効率を向上
- 営業キャッシュ・フローの安定的な創出により、成長分野への投資を強化

3. サステナブル企業に向けた ESGへの取り組み

社会の持続可能な発展に貢献するSustainable Value(社会的価値)向上の指針に基づき、中期計画“Sustainable Value 2023”を策定し実施

経済的価値の目標達成状況



※1 見直し目標値は2023年3月期 第1四半期決算時(2022年7月)に開示予定 ※2 上記5項目の数値目標はオーガニック・グロースを前提

SCREEN Value(企業価値)の向上を目指し、 さまざまな取り組みを実施しています

生産体制強化 S³-4の建設開始

中長期の生産整備計画「彦根グランドデザイン」に基づき、彦根事業所内に新工場となる「S³-4(エス・キューブフォー)」建設を中心とした設備投資を決定しました。新工場の操業開始は2023年1月を予定しています。

S³-4は、枚葉式洗浄装置「SUシリーズ」の主力工場であるS³-3に連結される予定です。S³-3で生産された装置やユニットの出荷前洗浄工程を強化することで、生産開始から出荷まで従来に増して効率の良い生産フローを実現します。

近年の5G対応スマートフォンの普及や、DX(デジタルトランス

フォーメーション)の進展に伴うデータセンター需要の拡大をはじめ、IoTインフラの急速な普及により、半導体デバイスの需要が世界規模で増加しています。

好況が見込まれる半導体デバイスメーカーへの製造装置の安定供給を果たすとともに、再生エネルギー採用、空調設備更新など、省エネルギー投資も継続的に進めていきます。

今後、半導体の強い市場環境を追い風に、さらなる生産設備の拡大も検討しています。

設備投資のポイント

生産プロセス効率化

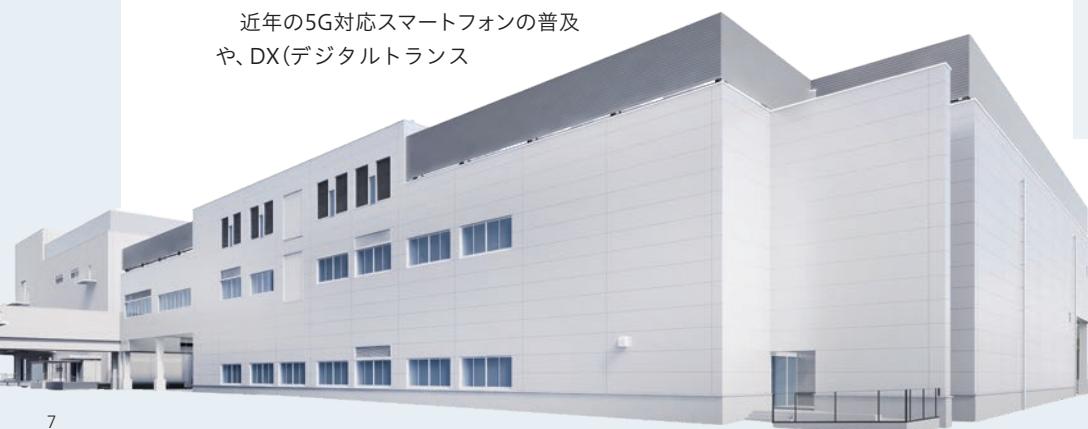
20% 程度
生産能力アップ

総工費

120億円 規模
新工場に加え、
施設拡充や改修も

ESGへの取り組み

省エネルギー
投資の推進



燃料電池部材「MEA」の量産事業開始

近年、日常生活や産業活動において、地球に優しいエネルギーとして水素を活用する「脱炭素・水素社会」の実現に向けた取り組みが急加速しています。

中でも期待の高まる燃料電池自動車(FCV)の普及に貢献するため、三菱商事RtMジャパン株式会社と提携し、燃料電池の耐久性と性能を左右する重要部材

「膜電極接合体MEA」の量産事業を開始しました。

2021年における燃料電池の市場規模は3,700億円で、2030年には5兆円規模に拡大すると予想されます。そのうち7,000億円程度を占めると分析される燃料電池MEAの量産を通じ、さらなる成長を目指します。



プライム市場に移行

2022年4月の東京証券取引所再編に伴い、新区分「プライム市場」に移行しました。

世界から注目される市場にふさわしい企業として、今後も国内はもとより、グローバルな投資家との建設的な対話を進めていきます。



JCR 格付の向上

部材調達難でも収益性を確実に改善したことが評価され、JCR(株式会社日本格付研究所)の信用格付(長期発行体格付)において、従来のBBB+からA-に引き上げとなりました。(2022年3月18日公表)

今後の見通しは「ポジティブ」を継続しています。

ランクアップ

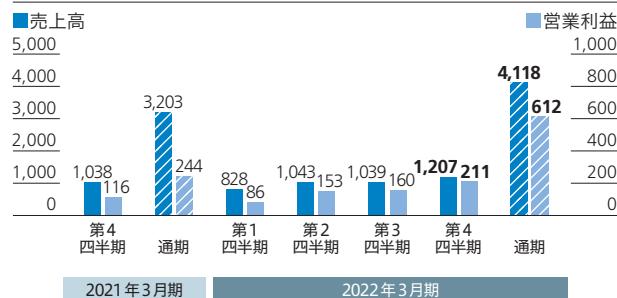
BBB+

A-

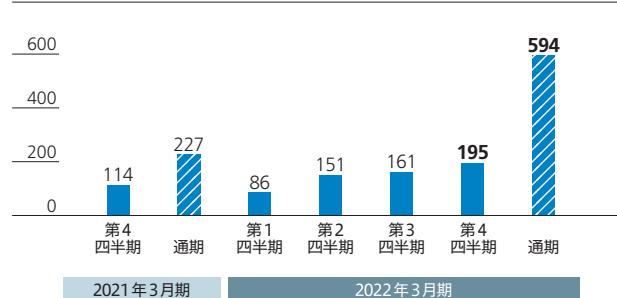
Highlight
連結決算ハイライト

(注) 財務数値につきましては、金額は表示単位未満を切り捨て、比率は四捨五入して表示しています。

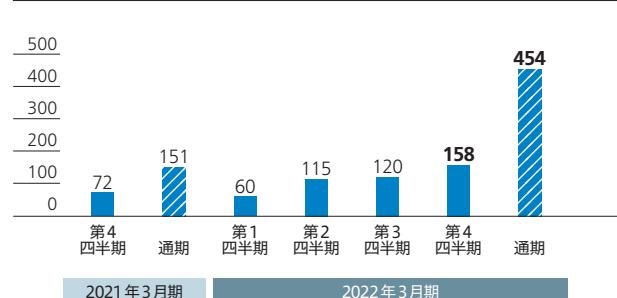
売上高・営業利益 (億円)



経常利益 (億円)



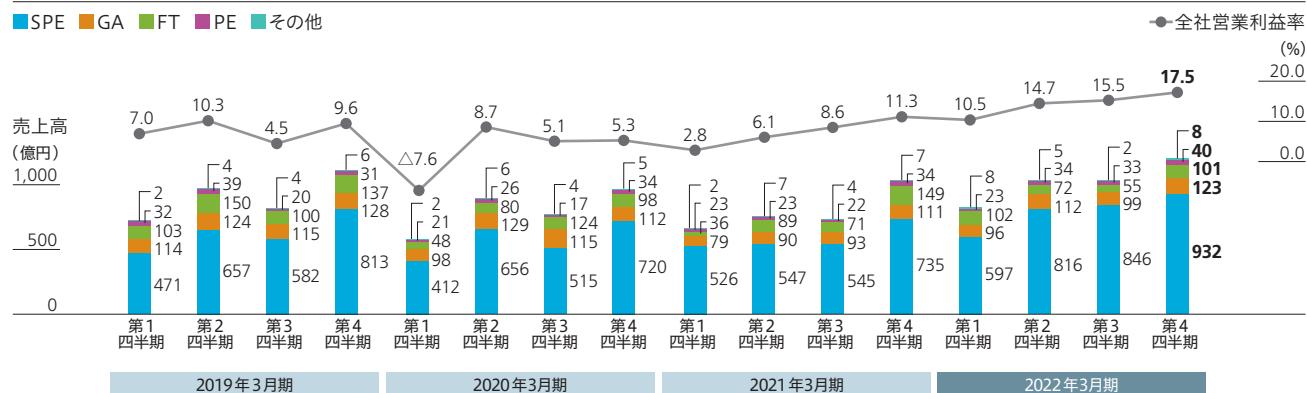
親会社株主に帰属する四半期純利益 (億円)



受注高・受注残高 (億円)



セグメント別売上高・全社営業利益率



Segment
セグメント別業績

SPE 半導体製造装置事業

売上高 **3,193** 億円 (前期比 35.6% 増)
営業利益 **628** 億円 (前期比 141.7% 増)

- 売上高、営業利益、営業利益率ともに過去最高
- ファウンドリー向け、メモリー向け、ロジック向けの売上が大幅に増加
- 台湾向けを中心に各地域で売上が増加



GA グラフィックアーツ機器事業

売上高 **433** 億円 (前期比 15.8% 増)
営業利益 **16** 億円 (前期比 205.5% 増)



FT ディスプレー製造装置および成膜装置事業

売上高 **332** 億円 (前期比 4.1% 減)
営業利益 **5** 億円 (前期比 35.0% 増)

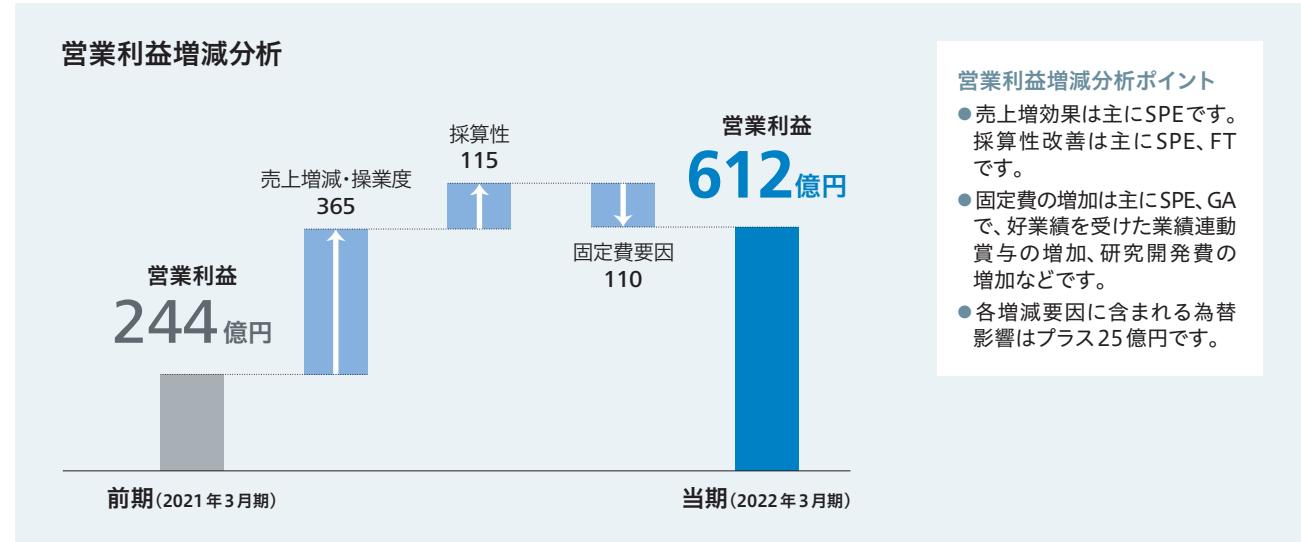
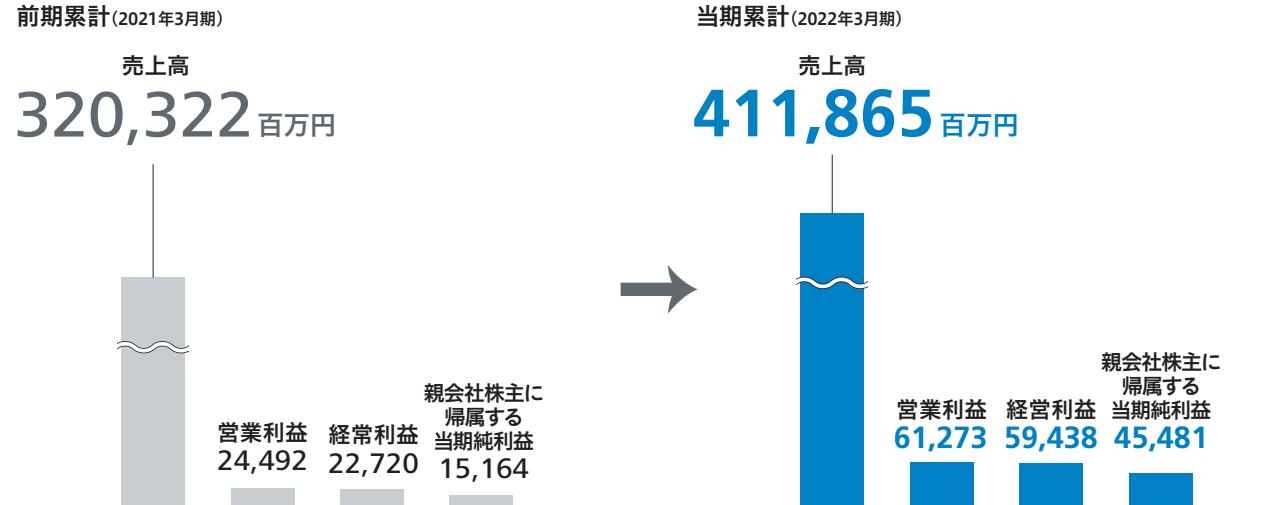


PE プリント基板関連機器事業

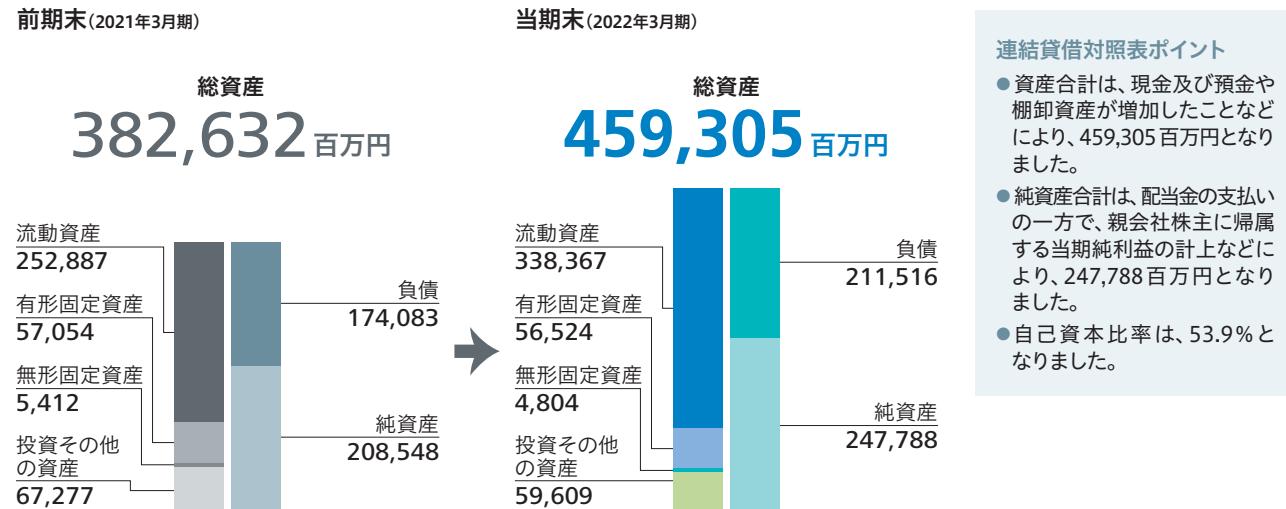
売上高 **133** 億円 (前期比 27.6% 増)
営業利益 **20** 億円 (前期比 168.3% 増)



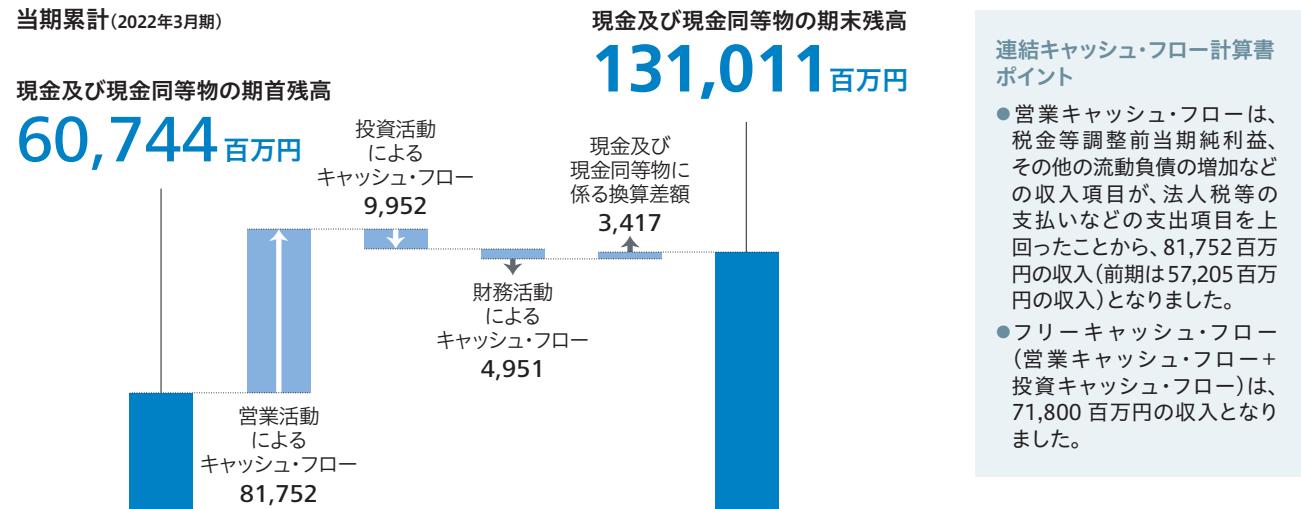
連結損益計算書



連結貸借対照表



連結キャッシュ・フロー計算書



2021年

4月

NEDO公募「ポスト5G情報通信システム基盤強化研究開発事業／先端半導体製造技術の開発(助成)」への採択

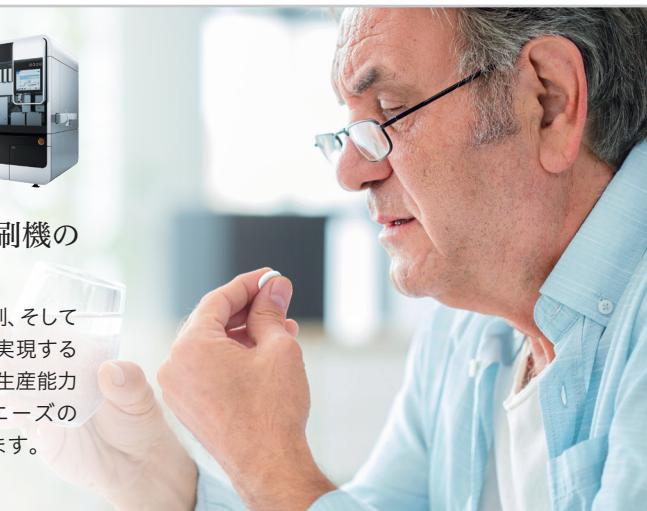
2nm以降の先端半導体製造プロセスのうち前工程における製造技術(微細化技術)の開発を目指し、当社は、洗浄およびアニール(熱処理)技術と装置に関する研究開発を実施します。



5月

生産システムの自動化を実現する、インクジェット式錠剤印刷機の最新モデルを開発

錠剤の外観検査から錠剤への印刷、そして印刷後の印刷検査までを一台で実現する「OMNITO+(オムニトプラス)」。生産能力の向上と、自動化運転により、ニーズの高まる生産コスト低減に貢献します。



9月

プリント基板向け直接描画装置の高解像性モデル「Ledia 7F」を開発

「Lediaシリーズ」のラインアップ拡充により、5G関連やIoTインフラを中心に需要が急拡大するHDI(高密度多層)基板、パッケージ基板などの高精細なパターン形成に対応。高精細な描画性と高生産性を実現しました。



9月

「半導体・オブ・ザ・イヤー2021」で「優秀賞」を受賞

コストパフォーマンスに優れたスピニングプロセス「SP-2100」が高評価を獲得し、受賞につながりました。従来製品と比較して約40%のコンパクト化を実現、納入後のウエハーサイズ変更や容易な改造などの柔軟性が評価されました。



12月

TCFD提言への賛同を表明

「気候関連財務情報開示タスクフォース(TCFD)」による提言への賛同を表明し、「TCFDコンソーシアム」へ参画しました。提言に基づく情報開示を進め、脱炭素社会・循環型社会の構築と発展に貢献すべく、事業活動を推進していきます。



2022年

2月

EDP2021「Best Label Printer賞」を受賞

UVインクジェットラベルプリンティングシステム「Truepress Jet L350UV SAI S」で、3度目の受賞。生産性の向上、色域の拡大、使用インク量削減、インクヘッドの追加、省スペース化、特色調整の精度向上、調整時間の短縮化などラベル印刷の市場ニーズに合わせた製品であることや、自社開発ソフトウェアによる操作性の良さなどが評価されました。



2月

「Clarivate Top 100 グローバル・イノベーター 2022」を受賞

特許データの分析から見る世界の革新的な企業・機関トップ100に選出されました。今後も、イノベーション創出を目指した研究開発と、それを支える知的財産創出をさらに強化していきます。



2021年

- 5月 東京ガスとSCREEN、低コストグリーン水素製造に向けた水電解用セルスタックの共同開発に合意
- 6月 名誉顧問(当時) 石田 明が、長年にわたる発明の奨励、青少年の創造性開発育成などに貢献した功績を認められ、令和3年度全国発明表彰「発明奨励功労賞」を受賞
- 7月 AFIとSCREEN、業界初となるラベルフリー細胞分離分析システムを開発。生細胞にダメージを与えず、異物混入のリスクを最小限に減らした細胞分離を実現

- 7月 長時間循環停止した臓器の生体外蘇生に成功
メタボローム比較解析により劣化臓器の代謝回復までを実証
- 8月 SCREENと京都女子大学、データサイエンスをはじめとした包括的な連携・協力に関する協定を締結
- 9月 SCREENとPHCNA、米国での高速3D細胞イメージングシステムの販売契約を締結

2022年

- 10月 経済産業省の「ゼロエミ・チャレンジ企業」に選定
燃料電池の多用途活用の実現に関する技術開発
- 11月 令和3年度近畿地方発明表彰「特許庁長官賞」を受賞
消費電力削減、長寿命化、水銀レスを実現した「UV-LED複数波長露光式直接描画装置」の発明により、環境負荷低減に貢献
- 12月 体外で治療効果を予測する、革新的な「がん個別化医療」の実現に向け、産官学連携で共同研究を開始

- 1月 アドバンスド(先端)パッケージ向け次世代パターン用直接描画装置「LeVina(レビーナ)」を開発
- 1月 次なるステージへ、半導体製造装置の生産体制を強化
※詳細情報はP7をご参照ください。

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	定時株主総会 3月31日 剰余金の配当 3月31日 ※ 当社は中間配当制度を採用しておりません。
単元株式数	100株 ※ 2016年10月1日をもって、単元株式数を1,000株から100株に変更し、当社普通株式5株を1株に併合いたしました。
公告方法	電子公告により、当社ウェブサイトに掲載いたします。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。
株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
株主名簿管理人事務取扱場所	大阪府中央区北浜四丁目5番33号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先)	電話：0120-782-031 (フリーダイヤル) 取次事務は、三井住友信託銀行株式会社の本店および全国各支店で行っております。

1. 「特別口座」に記録された株式をお持ちの株主さま

株券電子化までに証券保管振替機構(ほふり)に株券を預託されなかった株主さまの株式は、当社が三井住友信託銀行に開設しました「特別口座」に記録されています。特別口座では、株式の売買が制限されておりご不便かと存じますので、証券会社に開設されました一般口座へ振替されることをお勧めいたします。お手続きの詳細は上記の三井住友信託銀行にお問い合わせください。

2. 単元未満株式をお持ちの株主さま

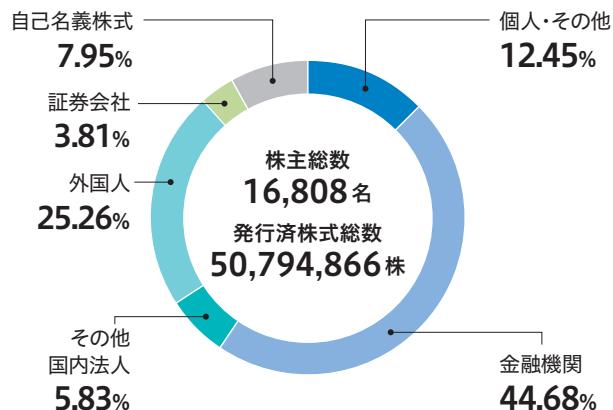
当社に対して、次の請求を行うことができます。

【買増請求】 単元株式(100株)に不足する株式の買増し

【買取請求】 単元未満株式の買取

お手続きの詳細は、お取引の証券会社(特別口座が開設されました株主さまは、三井住友信託銀行)にお問い合わせください。

所有者別持株比率 (2022年3月31日現在)



株主・投資家さま向けウェブサイトのご案内

決算を中心とする財務情報、株主総会、経営方針、株価、配当などの情報や、当社グループの歩み、アニュアルレポート、株主通信ほかの各種資料を掲載しています。

www.screen.co.jp/ir

SCREEN 投資家

検索



本誌にて提供する業績予想は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績などは様々な要因により大きく異なる可能性があります。

株式会社 SCREENホールディングス

〒602-8585 京都市上京区堀川通寺之内上る四丁目天神北町1番地の1 電話：075-414-7233

www.screen.co.jp

SCREEN NOW vol.112 発行日：2022年6月24日(発行は毎年6月) 発行責任：広報・IR室 IR部

本誌では、当社製品(フォント)「ヒラギノ書体」「ヒラギノユニバーサルデザイン書体」を使用しています。

UD FONT
by HIRAGINO



証券コード：7735

IR-SN-112